

令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立清原中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	69人	算数	69人	理科	69人
第5学年	国語	70人	算数	70人	理科	70人

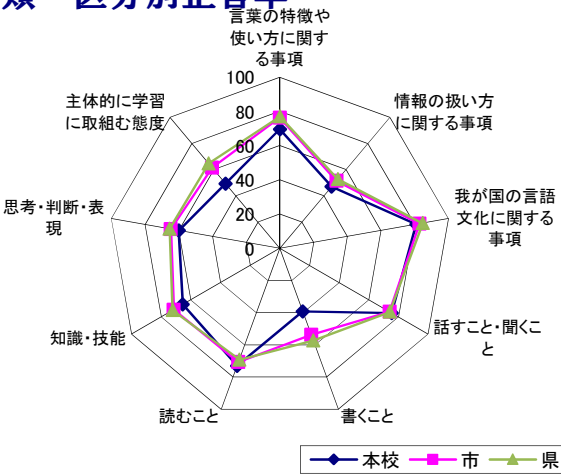
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立清原中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	69.6	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	47.1	51.5	52.7
	我が国の言語文化にに関する事項	80.9	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	75.5	74.1	74.2
	書くこと	39.2	53.7	57.2
観点	読むこと	73.0	70.7	69.2
	知識・技能	65.5	71.6	72.3
	思考・判断・表現	60.0	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	49.4	61.6	64.7



★指導の工夫と改善

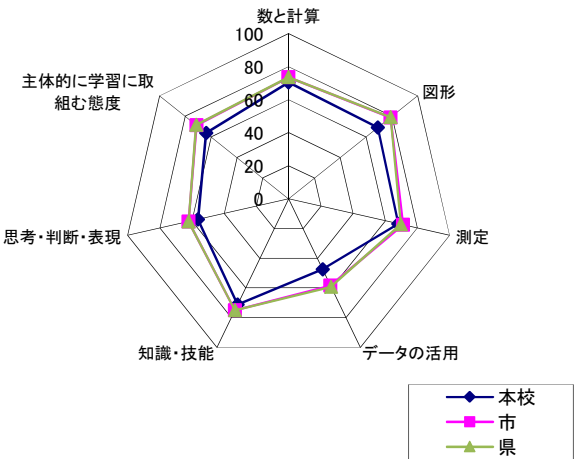
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○「都合」という漢字を読む問題に関して、県平均より約7ポイント上回った。 ●漢字を書く問題では、全ての問題で県平均を下回った。	・現在学習している単元の漢字に限らず、習得が不十分な漢字に関しては繰り返し指導を行い、定着を図る。また、漢字を使って熟語作りを行ったり、短文を作成したりする学習活動を多く授業の中で取り入れていく。
情報の扱い方にに関する事項	●情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確にして書く問題では、県平均を約14ポイント下回った。	・国語に限らず、各教科において自分の考えと根拠をしっかりと言えるような学習を取り入れていく。 ・文章の内容を読み取る際に、段落ごとに区切りながら考えさせ、文章全体における段落の役割や段落の関係性を意識して指導する。
我が国の言語文化にに関する事項	○漢字のへんやつくりを理解する問題では、県平均とほぼ同じであり、80.9ポイントであった。	・漢字の学習を行う際には、今後も継続してへんやつくりを意識して練習させることにより定着を図っていく。
話すこと・聞くこと	○話し手の工夫を捉える問題では、県平均を約6ポイント上回った。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉える問題では、県平均を約5ポイント下回った。	・相手の考えや伝えたいことについて要点をまとめる練習を、普段の授業の中で取り入れていく。 ・様々な話合いの場面において、具体的な発言を取り上げ、その発言がどのような考えに基づいているのかに着目させた上で、話合い活動を行わせる。
書くこと	●「書くこと」に関しては、県平均を約18ポイント下回った。特に、指定された長さで文章を書く問題では、県平均を大きく下回っていた。	・段落の使い方などの文法や、自分の考えとそれを支える理由を明確にして文章を書くことを意識して学習に取り組ませる。 ・日頃の授業や家庭学習の中で、書く活動を積極的に取り入れていく。
読むこと	○物語の内容を読み取る問題に関しては、県の平均を約5ポイント上回った。	・物語の叙述から登場人物の特徴を捉えることや、登場人物同士の関わり合いや、気持ちの変化を考えていく活動を意図的に行い、経験を積ませていく。 ・説明文において、段落ごとに要点を的確に読み取る活動を継続的に行い、経験を積ませていく。

宇都宮市立清原中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	70.5	73.5	73.6
	図形	69.1	79.0	79.1
	測定	68.2	71.1	69.8
	データの活用	47.5	58.4	59.2
観点	知識・技能	71.1	75.0	75.0
	思考・判断・表現	56.3	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	63.9	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

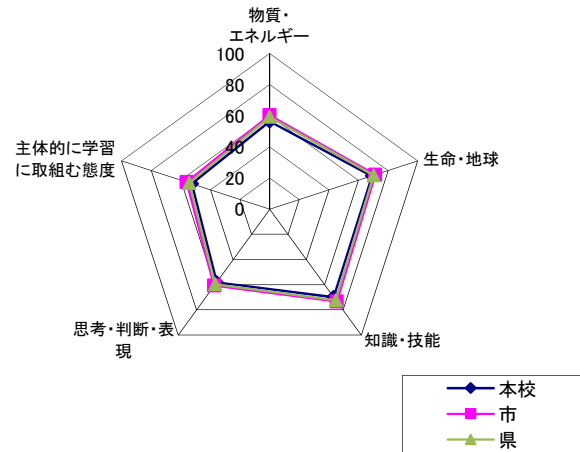
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○十進位取り記数法についての問題では、県平均を約9ポイント上回った。 ●分数に関する問題では、県平均を約10ポイント下回った。	・数直線上に表された分数を読み取る学習では、示された分数が1を何等分したもののかはっきりさせ、数直線を書いたり、書かれた数直線を読んだりする活動を半具体物等を使って行わせるようにする。
図形	●円や球の半径に関する問題では、県平均を約10ポイント下回った。	・円や球の半径と直径の関係についての学習では、実物の操作や視聴覚教材の活用、求め方の説明をする活動などを行うことにより確実に理解できるようにする。 ・図形の概念をしっかりと理解させ、折ったり重ねたりする操作の意味を数学的に理解させる活動を取り入れる。
測定	○はかりの目盛りを読み取って果実の重さを求める問題では、県平均を5ポイント以上上回った。 ●道のりの意味を理解しているか確かめる問題では、県平均を約6ポイント下回った。	・時刻や時間の学習では、具体物の活用や、生活の中の場面を想起させることで、単位と時間の変化を結び付けて実感をもって理解できるようにする。
データの活用	●棒グラフに関する各問題においては、県平均を約11～14ポイント下回った。	・棒グラフの学習では、1目盛りの大きさに着目して読み取らせるようにするとともに、社会や理科の学習と結び付けて指導を行う。 ・日常生活において、棒グラフや円グラフを目にする機会を多く設け、関心が高まるように努める。

宇都宮市立清原中央小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	56.3	60.2	59.2
	生命・地球	69.1	71.3	70.3
観点	知識・技能	69.9	73.4	72.3
	思考・判断・表現	58.0	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	52.6	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○磁石につくものとつかないものを区別する問題では、県平均を約6ポイント上回った。 ●実験の結果から推測して説明する問題では、県の平均を約9ポイント下回った。	・形が変わっても重さが変わらないことについて、日常生活のどの場面でどのように生かされているかを考えさせる時間を設け、学習したことが実生活と結びついていることを理解できるようにする。 ・物の重さの学習では、実験の時間を十分に取ることで、児童1人1人が実感的に理解できるようにする。
生命・地球	○野外の観察で近づいてはいけない棘や毒のある生物を理解しているかどうかを確かめる問題では、県平均を約9ポイント上回った。 ●完全変態と不完全変態の違いに関する問題では、県平均を約11ポイント下回った。	・こん虫の育て方の学習では、観察環境を整え、数種類の昆虫を、成長過程ごとに観察を行っていくことで、正しい知識の定着を図る。 ・こん虫の育ち方の学習については、文字だけでなく、図を使ってまとめることで、理解度を深めるようにする。

宇都宮市立清原中央小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「一か月に、何冊くらい本を読むのか」の質問では、県・市町村に比べて、11冊以上本を読む人の割合は8ポイント高い。全体的に見ると少しでも読書をするのが好きな児童が多いことが分かる。今後も、朝の読書や国語の授業などを通して、本に触れる機会を設け、たくさん本を読めるよう働き掛けていきたい。

○「将来の夢や目標をもっている」の質問では、県平均を7ポイント上回った。本校で行っている夢いっぱいプロジェクトの成果と考えられるので、今後も学校全体で取り組んでいきたい。

○「誰に対しても思いやりの心をもって接している」の肯定的回答が県平均を8ポイント上回った。友達の気持ちになって考えられる児童が多いので、道徳を中心に各教育活動で取り組んでいきたい。

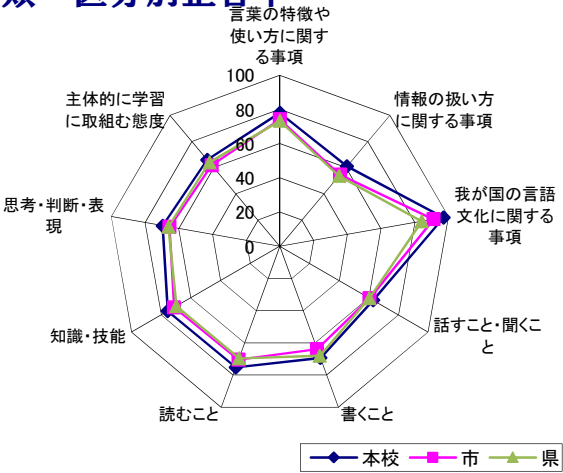
●「家で学校の復習をしている」の質問では、肯定的に回答した児童は50ポイントで、県の回答を15ポイント下回った。これまでも自主学習として復習をすることを進めてきたが、実際のノートの書き方を例示するなど、復習の仕方を具体的に指導していきたい。

●「わからない国や地名があったら、インターネットや地図帳などを使って調べている」の質問では、肯定的回答が51.5ポイントで、県平均を9.4ポイント下回った。タブレット等を活用して、進んで調べる機会を増やしていく。

宇都宮市立清原中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	78.0	74.2	73.3
	情報の扱い方にに関する事項	61.0	54.7	53.8
	我が国の言語文化に関する事項	97.1	91.2	84.2
	話すこと・聞くこと	62.9	60.6	60.4
	書くこと	69.3	63.8	68.0
	読むこと	75.2	70.4	69.6
観点	知識・技能	75.7	71.3	69.9
	思考・判断・表現	69.5	65.4	66.1
	主体的に学習に取り組む態度	66.0	61.9	64.0



★指導の工夫と改善

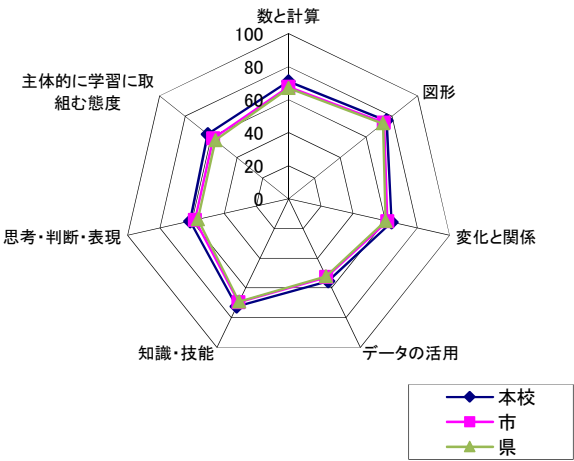
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	○漢字の読み書きの設問では、全体的に県の平均正答率を上回っている。 ●連体修飾語について理解する問題では、県の平均正答率を13ポイント下回っている。	・文章を書く活動の際に、主語、述語、修飾語等を意識させながら、それぞれの役割を理解させていく。 ・日常生活において読書活動を多く取り入れ、語彙力を高める指導をしていく。
情報の扱い方にに関する事項	○漢字辞典の使い方を理解する問題では、県の平均正答率を7ポイント上回っている。	・普段の活動から積極的に、漢字辞典を活用できているので、引き続き継続していく。
我が国の言語文化に関する事項	○ことわざの意味を知り、正しく使っている問題では、校内正答率97.1ポイントとほとんどの児童が理解できている。	・どの授業のときにも辞書を活用し、分からない単語や言葉などがある際には、すぐに調べるなど、積極的に辞書を使うことができているので、継続していく。
話すこと・聞くこと	○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉える問題では、県の平均正答率を9ポイント上回った。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉える問題では、県の平均正答率を7ポイント下回った。	・話し合い活動を通して、要点や話し方の工夫を意識して聞き取ったり、自分の考えを述べたりする活動を多く取り入れるようにする。
書くこと	○アンケート調査の結果を基に、自分の考えを書く問題では、文字数や、段落の構成などの条件に合った書き方ができる児童が多い。	・定期的に出題している作文の宿題等で、児童が意識して文章を書くことができているので、継続して行っていく。
読むこと	○物語文の登場人物の気持ちを読み取る問題では、校内正答率が90ポイントを上回っており、ほとんどの児童が理解できている。 ●情報と情報との関係について理解し、段落相互の関係を捉える問題では、県の平均正答率を7ポイント上回っているものの、校内正答率は半分を下回っている。	・段落ごとの要点をまとめたり、段落と段落の関係を捉えたりして、説明文の指導をしていきたい。 ・段落相互の役割や関係を考える際に、筆者の考え、結論に着目させ、どのような理由によって説明されているのか、具体的な叙述を基に正確に捉えられるよう指導していく。

宇都宮市立清原中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.1	67.8	67.0
	図形	75.9	73.9	73.1
	変化と関係	64.0	61.4	60.2
	データの活用	55.4	52.7	52.1
観点	知識・技能	72.5	69.7	69.2
	思考・判断・表現	61.2	58.1	56.3
	主体的に学習に取り組む態度	62.7	58.5	56.7



★指導の工夫と改善

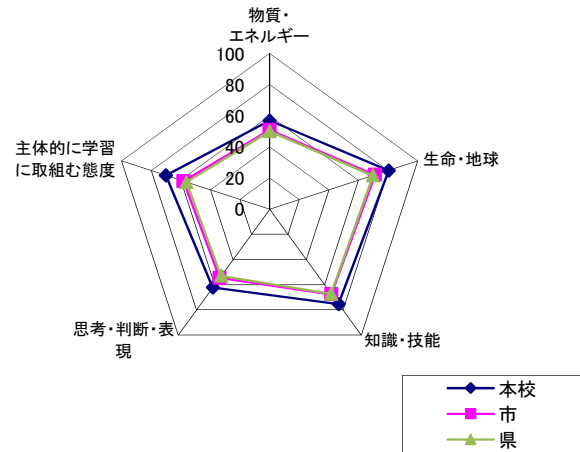
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○平均正答率は、市や県の平均より高い。わり算・計算のきまりの中の、余りのある3けた÷2けたの計算問題では、県の平均正答率を約18ポイント上回った。 ●数の相対的な大きさについて理解する問題では、県の平均正答率を約7ポイント下回った。	・億や兆など大きな数の問題などに、授業や朝の学習などで繰り返し取り組ませることで、知識の定着を図れるよう指導していく。
図形	○平均正答率は、市や県の平均より高い。ひし形の作図をする問題では、県の平均正答率を約6ポイント上回った。 ●1000円札のおよその面積を選ぶ問題では、県の平均正答率を約5ポイント下回った。 ●分度器の中に示された角の大きさの目盛りの読み取り方を理解する問題では、県の平均正答率を約7ポイント下回った。	・単位と実際の面積や物の量を結び付けて、実感をもって推測したり、定規や分度器を使って確かめたりする体験を重ねていく。 ・一人一台のタブレットを活用し、視覚的な理解を深めていく。 ・図形の学習では、図形の内容をしっかりと理解させ、分度器やコンパス等の使い方を確実に定着させる。
変化と関係	○平均正答率は、市や県の平均より高い。基準量と比較量を求めた割合を比較して、どちらの包帯がよくなるかを説明する問題では、県の平均正答率を約15ポイント上回った。 ●伴って変わる2つの数量の一方の値から、もう一方の値を求める問題では、県の平均正答率を約5ポイント下回った。	・デジタル教科書や実物を用いて、類似の問題に取り組ませることで、変化と関係について児童の理解がより深まるよう指導していく。
データの活用	○平均正答率は、市や県の平均より高い。二次元表を読み取る問題では、県の平均正答率を約7ポイント上回った。 ●二つの折れ線グラフを読み取り、それを根拠に理由を説明する問題では、県の平均正答率より3ポイント上回ってはいるが、正答率が34ポイントと低かった。	・国語における読解指導と関連させて、会話文の長い文章問題に繰り返し取り組ませることで、問題の趣旨を読み解く力が定着するよう指導していく。 ・データ活用の力を伸ばすために、グラフ等の知識・技能の習熟だけでなく、それらから読み取れる事柄をじっくりと考え、説明するような活動を重視し、積み重ねていく。

宇都宮市立清原中央小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	56.9	50.8	50.0
	生命・地球	80.3	71.1	69.8
観点	知識・技能	75.4	67.6	67.2
	思考・判断・表現	62.1	54.5	52.9
	主体的に学習に取り組む態度	70.0	58.1	56.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○道路のわきの方に水が集まるのはなぜかを記入する設問では、県の平均正答率を14ポイント上回った。 ○金属の温まり方と水の温まり方の違いを問う設問では、県の平均正答率を14ポイント上回った。 ●乾電池の向きによって、電流の向きが変わることや検流計の見方を問う設問では、正答率が低かった。	・電流の向きによって検流計の針の向きも変わることを理解が不十分なため、基礎的事項を繰り返し確認して定着を図る。 ・今後も既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を立てさせ、問題解決の力を育てていく。
生命・地球	○1日の気温の変化のグラフから、晴れの日を判断し、その理由を説明する設問では、県の平均正答率を24ポイント上回った。 ○満月の見える方位を問う設問では、県の平均正答率を23ポイント上回った。 ●方位磁針の正しい使い方を選択する設問では、県の平均正答率を6ポイント下回った。	・方位磁針の正しい使い方の理解が不十分だったため、学習の始めには、必ず用具の基礎的事項を確認してから実験を行っていくよう指導する。

宇都宮市立清原中央小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「自分には、よいところがあると思う」の質問では、肯定的回答をした児童の割合が8割を超えており、自己肯定感をもつことができるような学校の取組の成果が表れている。今後も、一人一人を大切に学級や学年・学校における取組から自己肯定感が高まるように努めていきたい。

○「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」の質問では、72.8%が肯定的回答をしていて、市や県よりも高い割合である。また、「家の人と将来のことについて話すことがある」や「学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う」の質問の肯定回答率が高いことから、普段の学習の有効性を考えることができ、将来に対して前向きに捉え、生活していると思われる。「家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる」の質問でも、90%が肯定回答をするなど、家族の言葉が励みになっていることが読み取れる。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」と回答した児童の割合は市の平均と比べて、10ポイント低く、自分の考えや意見を発表することが苦手な児童が多いことが分かる。今後は、発表する機会を今まで以上に設け発表することで、友達から称賛される喜びが味わえるような指導を推進していきたい。

●「1か月に、何さつくらい本を読みますか」の質問に対して「1さつも読まない」と回答した児童が11.4%と市や県と比べて大きく上回っている。普段から文章に触れる機会が少なくなっているため、国語の読み取りや段落の関係、要約などの問題で苦手な部分が出てきてしまう児童がいる。朝の学習の時間や図書室利用の時間を有効に活用し読書をする時間の確保をするとともに、家庭学習の時間にも読書の時間を設けることを推奨していきたい。

宇都宮市立清原中央小学校（第4・5学年共通）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
授業において、めあて、まとめ、ふりかえりを確実に 行うための工夫	・黒板に貼る、めあて・まとめ・ふりかえり 等のカードを全教室に置き、どの授業で も活用できるようにしている。	・「授業の中で目標がしめされている」の設問では、 肯定的回答をした児童が4年生は82.4%で市の 肯定的回答より3.8ポイント下回った。5年生は、9 5.8%で4.2ポイント上回っている。 ・「授業の最後に、学習の振り返る活動をよく行っ ている」の設問では、肯定的回答をした児童が4年 生は79.5%で市の肯定的回答より9.8ポイント上 回った。5年生は71.4%で7.9ポイント下回った。
自分の考えをもち、豊かに 表現できる力の育成	・国語を中心にした各教科で、自分の考 えを書いたり発表し合ったりする活動を取 り入れる。 ・話し合いにおいて形態を工夫するととも に、発達段階に応じた聞き方・話し方のス キルを身に付けさせるよう指導している。	・「グループの話し合いに自分から進んで参加してい る」の設問では、肯定的回答をした児童が4年生は 70.6%で市の肯定的回答より3.2ポイント下回っ た。5年生は、72.8%で1.9ポイント下回った。県 や市の肯定的回答を下回っているため、今後も学 校全体で話し合い活動に取り組んでいく。
家庭学習の習慣化に向 けた指導の工夫	・学年内で宿題の量や家庭学習のやり方 について共通理解を図る。学級活動で家 庭学習・自主学習のやり方を指導する。 ・家庭学習の強調週間を設け、保護者が 確認できる機会を設けている。	・「家で、学校やじゅく決められた宿題のほかに自 分で考えた勉強している」の設問では、肯定的回 答をした児童が4年生は52.9%で市の肯定的回答 より7.9ポイント下回った。5年生は、52.8%で 8.4ポイント下回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
自分の考えや理由、解き方などを記述 する問題で県平均を下回るものがあ った。	それぞれの児童が自分 の考えをもち、互いに表現 する活動の充実	各教科の授業において、どの児童も考えがもてる ようにする発問や作業用紙を工夫する。また、意見 の発表、順序や理由の説明など、場面に応じた記 述をする機会を設定し、考えを表現するスキルを身 に付けられるようにする活動を取り入れる。